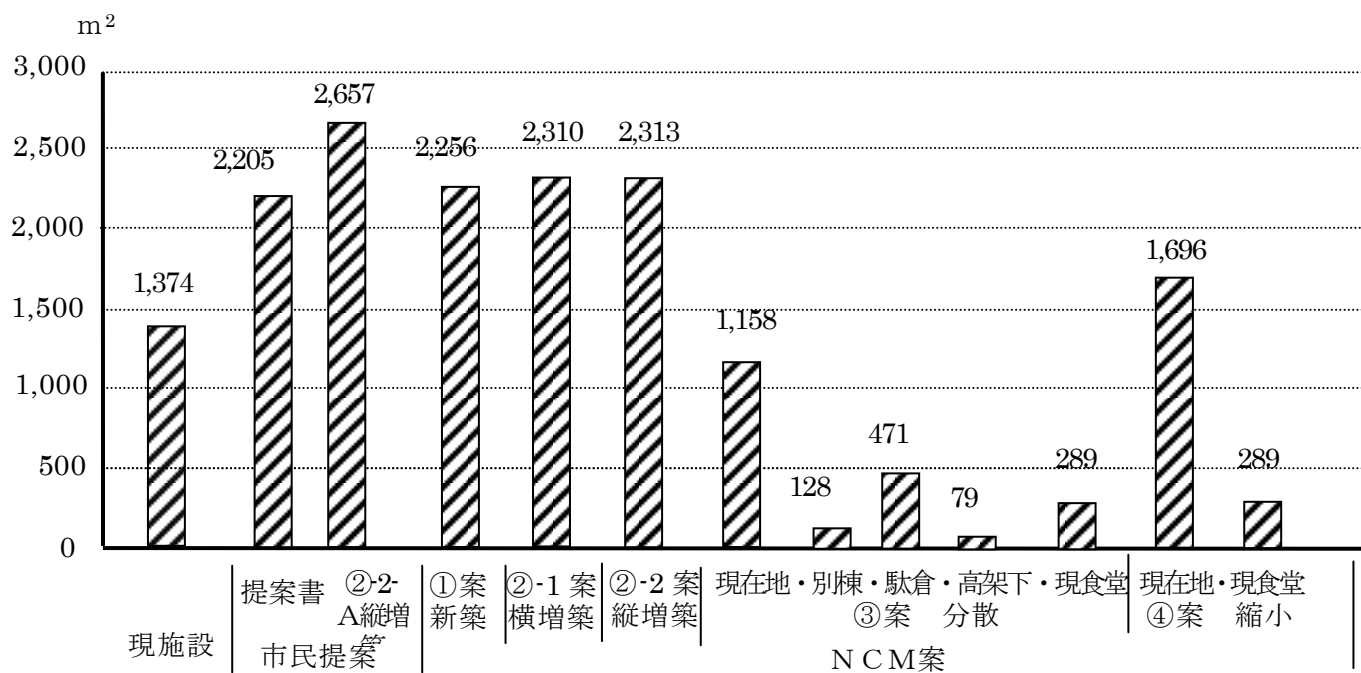


市民提案書とNCM調査報告書案の市民センター面積比較

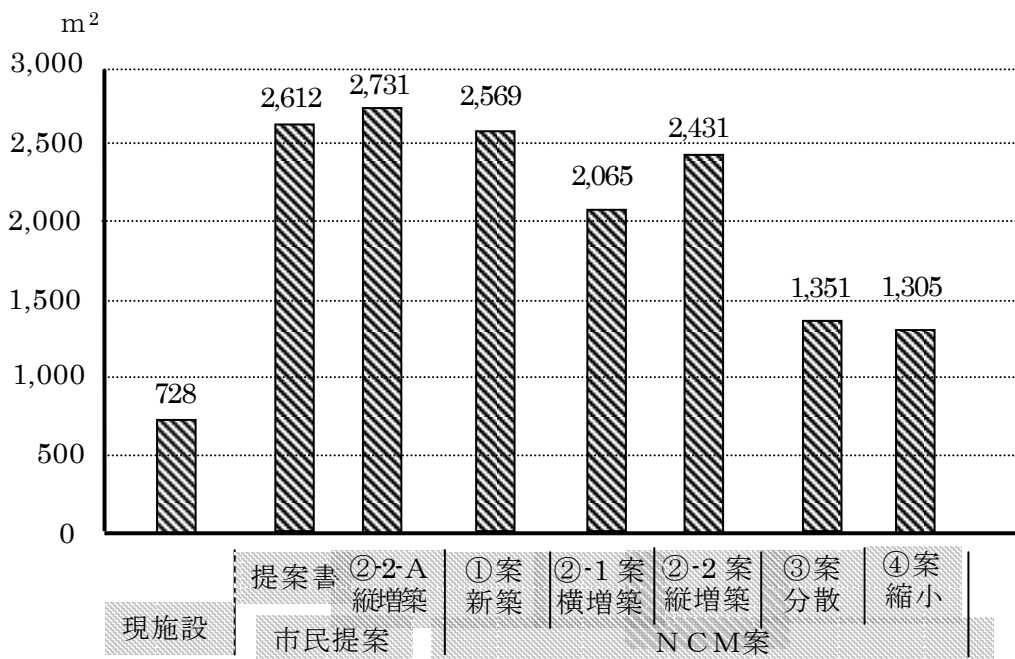


市民提案書とNCM調査報告書案の公民館面積比較

面積に関する問題の1例

利用者のことや利用者を増やし発展させていこうとする姿勢が感じられない③・④案。

1. 地下にあるホール等は残し、他は駄倉地区など5カ所に分散する③案。現状より不便になり、人とのつながりを失う。
2. 共用部屋が多く、会議室は狭く、講座室をなくし、ホール・会議室を間仕切り使用する等、不便に。



市民提案書とNCM調査報告書案の図書館面積比較

面積に関する問題の1例

市の委託調査案③・④の分散案・縮小案では提案書の約半分だが、現行の約1.8倍ある。しかし、

1. 一般開架の単位面積当たりのスペースは現在と同じで、閉架書庫と同じ数字、1m²当たり200冊。現状の「狭い・車いすやベビーカーに対応した通路スペースが無い・読書スペースが無い」は解決されない。
2. 提案書では蔵書数は「狛江市新図書館基本計画」(1999)の40万冊、06年建設の稲城市中央図書館の37万冊などを参考に現状の倍の35万冊を求めている。NCMの③案は25万冊、④案は23.7万冊と少ない。
3. 参考資料・地域資料室は現状以下というレファレンス機能の縮小をはじめ、新聞・雑誌コーナー等、新たなサービスは大幅に縮小。